

## 極域からみたフロンティア地震学

## Frontier seismology viewed from polar region

# 金尾 政紀 [1]

# Masaki Kanao[1]

[1] 極地研

[1] NIPR

<http://polaris.isc.nipr.ac.jp/~pseis/>

地球内部を覗く窓としての極域は、高緯度に位置する地理的条件を生かして、近年固体地球の深部（中心核－マントル）から地球表層部（地殻－リソスフェア）に至るまでの様々な深さにおいて、精力的な地震学的研究が行われている。

本発表では、両極域における地球内部フロンティア研究に関連する様々な研究成果の紹介を行う。具体的には、A) 中心核（内核）の不均質構造と異方性、並びに経年変化、B) 液体核（外核）の構造とダイナミクス、C) 核－マントル境界（CMB、D層の不均質構造、異方性、D) 下部マントルの構造、トモグラフィー、プルームテクトニクス、E) 両極域の上部マントル構造とダイナミクス、地震学的不連続面の性質、F) 南北両極域のリソスフェアの構造とダイナミクス、G) 南北両極域のプレートテクトニクスと地震活動、H) 南極大陸の地殻構造とテクトニクス、I) 氷床変動・地殻変動に関連したダイナミクス、レオロジー、J) 地球内部を探るための極域における具体的な観測方法、並びに将来の計画案、等についてである。

グローバル地球科学におけるフロンティアの一つとしての両極域から、地球深部の静的・動的構造を視る重要性についての再認識を行い、来るべく国際極年 IPY2007-2008 にも関連して、今後の両極域での科学的研究の進展について述べる。